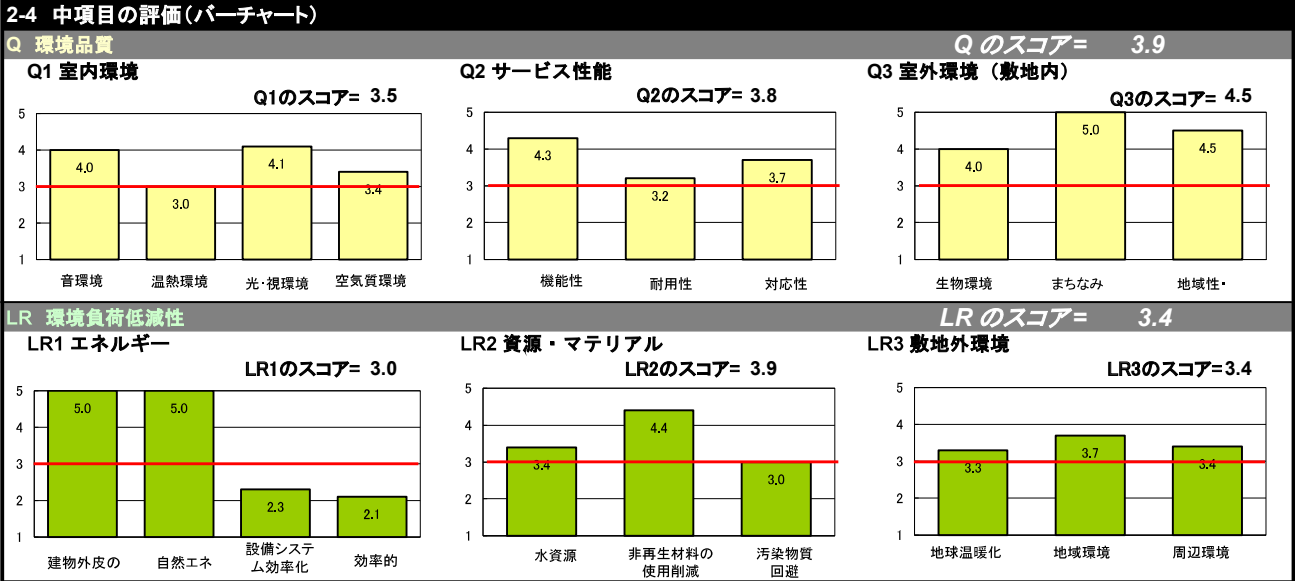
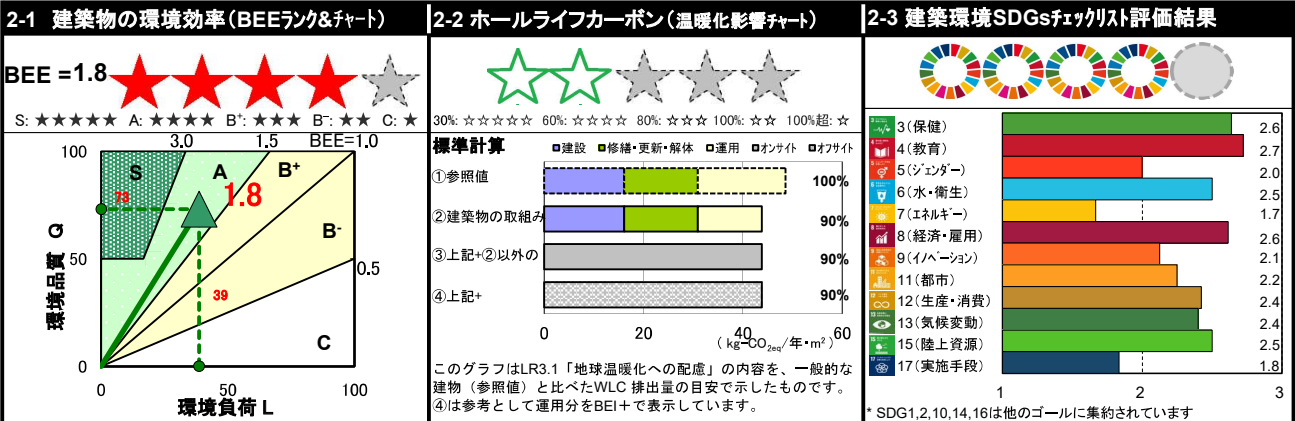


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)昭和学院秀英小学校・幼稚園	階数	地上3F
建設地	千葉県千葉市	構造	RC造
用途地域	法22条地域、幕張新都心文教地区	平均居住人員	300 人
地域区分		年間使用時間	1,600 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	
竣工年	2027年12月	評価の実施日	2025年12月9日
敷地面積	12,394 m ²	作成者	大庭拓也
建築面積	4,891 m ²	確認日	2025年12月9日
延床面積	9,848 m ²	確認者	大庭拓也



3 設計上の配慮事項			その他
総合 「幼稚園と小学校が連携し園児・児童の自発的な学びを促す校舎」「将来的な変化を見据えた柔軟な建物」「県産材をはじめ木素材を活用し快適な学び空間を創出する」をコンセプトに、個性ある学び舎を目指す。			
Q1 室内環境 教室は外部に対する遮音性を高めるとともに、サッシはなるべく大きく確保し児童が集中して学習に取り組むことができるように配慮した。開口部には庇とカーテンを設け省エネ性やグレア対策にも配慮した。また室温や湿度も最適な状態を保つことのできるような設備計画とした。	Q2 サービス性能 教室の天井高は3.0mを確保し広さ感に配慮した。また内装には木素材を採用し温かみのある空間とすることを目指す。照明計画には照度シミュレーションだけでなくFeu値を用いた検証も行い快適性に配慮した。設備計画は点検口や空配管を設ける計画とし更新性に配慮した。	Q3 室外環境(敷地内) 外構計画は敷地の植栽条件に配慮した植物を選定し、市要綱で定められた緑化率を満足する計画としている。建物外装には県産の木材を採用し温かみを表現する等、周囲への計画にも配慮した。	
LR1 エネルギー 建物外皮性能を高くし、年間を通した熱負荷低減に配慮した。また建物中央に配置した体育館(アトリウム)から各教室の自然通風が確保できるような計画とし、積極的に自然エネルギーを利用することができる計画とした。	LR2 資源・マテリアル 躯体、仕上げ材に一部リサイクル材を採用する等してサステナビリティに配慮した。断熱材や冷媒にはオゾン層を破壊することのない材を採用し地球環境にも配慮する計画とした。	LR3 敷地外環境 敷地周辺の気象データ等の事前調査を行い卓越風向や風環境を把握して計画した。駐車場出入り口は渋滞抑制に配慮、また駐輪場も使いやすい配置にする等、交通不可抑制に配慮した。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される